

カンボジア スパイリエン州農村女性組合設立支援事業
2000年度完了報告書
(2000年7月1日～2001年6月30日)

1 配分事業の総費用額等

総費用額 10,673,458 円

(内訳) 自己資金額 (総費用額-配分額) 7,977,458 円

郵政省国際ボランティア貯金 2,696,千円

自己資金額の割合 (自己資金額÷総費用額) 74.74%

2 援助事業の実施状況及び効果

【事業概要】

スパイリエン州は、ホームレス多発の最貧困地帯で、男性の出稼ぎなどによる流出率も高く、普段の村や家庭を守っているのは半数以上が女性という地域である。しかし、これまで実質的な地域開発の担い手であるはずの彼女達に焦点が当てられることは皆無で、貧困解決のための自助努力には能力的に限界があり、協同組織を創出できるような環境も整っていないため益々貧困状態を悪化させホームレス化に拍車がかかっている状況であった。

そこで、IVYでは、この女性達をメインターゲットとし、貧困原因の中でも特に指導者不足、協同組織不足、能力開発機会不足、食糧不足、収入不足という5つの要因に着目し、「女性組合」を手段として、人材育成開発、協同組合の組織化による「協力」の精神土壌の形成、収入、自給率の向上をめざすプロジェクトを99年7月からスタートさせている。

具体的には、すでに2村で「家庭菜園普及」(目的:食糧の自給、栄養向上による病気の予防、医療費削減)、「貯蓄」(目的:貯蓄の習慣付け、自己財源の確保による借金防止)、「家畜飼育」(目的:収入の向上、自己財源の確保、肥料の自給)などに取り組み、着実に成果を生んでいる。

女性組合の設立や運営にあたっては、「持続可能」ということに十分留意し、IVYが主導し、住民がそれに従うという受身の形ではなく、あくまでも女性達自らが開発の主体となって自分達の問題を見出し、解決していく必要があると考えている。そのため、IVYではPRA(住民参加型調査法)やワークショップなどの手法を使って、彼女達が調査、分析、計画、決定、実施、評価などすべてのプロセスに参加できる環境作りに努めている。

2000年度、IVYは99年度に引き続きスパイリエン州初の第1村目の女性組合の運営支援を行ってきた他、さらにもう1村において新たな女性組合を誕生させた。2001年6月末現在、2村の女性組合ではそれぞれの段階に応じた順調な成長が見られる。また、今後新たに2村での組合設立を支援を開始するべく、調査を始めているところである。

【実施状況概要】

本事業は、各村において次の4段階で進めている:

- 第一段階 女性組合発足のための準備期間
- 第二段階 女性組合発足
- 第三段階 プログラムの実施
- 第四段階 女性組合強化・自立運営指導

- 99年度着手した1村目のプレイチャンボック村は、引き続き第三段階のプログラムの実施と平行して、徐々に第四段階の女性組合の強化と自立に向けて、指導者層の育成と他の住民への指導を促している。
- 2000年度、I V Yが新たに活動を始めた2村目のチューティール村は、第一段階、第二段階を経て現在第三段階に突入し、個々のプログラムが開始したところである。

月	2村目 チューティール村	1村目 プレイチャンボック村
7月	村地区作成 基礎調査分析・報告書作成 キーパーソンとの会議 準備委員の推薦・意志確認・選出 準備委員会の設立 準備委員対象ワークショップ	女性リーダー会議 家畜購入のための貯蓄 家畜購入チェック 家庭菜園追跡調査・訪問指導
8月	女性組合準備委員会会議 選挙管理委員会設立	女性リーダー会議 家畜購入のための貯蓄 家畜購入チェック
9月	村の全女性対象ワークショップ 女性組合発足 組合員登録開始	女性リーダー会議 家庭菜園ボランティア会議 家庭菜園ボランティア組織化開始 家庭菜園ボランティアリーダー選出
10月	女性リーダー選挙 女性リーダー養成講座（第1回）	女性リーダー会議 家庭菜園ボランティア会議 女性組合第2回総会 全組合員対象ワクチン、家畜銀行に関するワークショップ 家畜ボランティア募集
11月	女性リーダー養成講座（第2回） 女性リーダー養成講座（第3回）	家庭菜園ボランティアトレーニング 貯蓄で購入した家畜に関する調査 全組合員対象ワクチン、家畜銀行に関するワークショップ 家畜ボランティアの選抜 第1回家畜ボランティアトレーニング
12月	女性リーダー養成講座（第4回） 地域別住民集会	女性リーダー会議 家庭菜園ボランティア会議 第2回家畜ボランティアトレーニング

1月	女性リーダー養成講座（第5回） 女性リーダー養成講座（第6回）	女性リーダー会議 全組合員対象家庭菜園トレーニング 家畜貸し出し開始 第3回家畜ボランティアトレーニング 第1回家畜ワクチン接種
2月	貯蓄・家庭菜園に関する調査 女性リーダー養成講座（第7回） 女性リーダー養成講座（第8回）	女性リーダー、家畜ボランティア会議 モデル豚舎・鶏舎の建設 第4回家畜ボランティアトレーニング
3月	女性組合総会 家庭菜園ボランティア募集 家畜ボランティア募集 女性リーダー対象貯蓄ワークショップ	家庭菜園ボランティア対象栄養講座 第5回家畜ボランティアトレーニング 家畜貸し出し者との会議 全組合員対象家畜飼育トレーニング
4月	女性リーダー会議 全組合員対象貯蓄ワークショップ 貯蓄グループ登録 家庭菜園ボランティア調査・選抜	家庭菜園ボランティアフォローアップ
5月	家畜購入のための貯蓄開始 家庭菜園ボランティアワークショップ 家畜ボランティア調査 女性リーダー会議	女性リーダー・家畜ボランティア会議 家庭菜園ボランティアフォローアップ 第6回家畜ボランティアトレーニング 全組合員対象ワクチンに関するワークショップ
6月	家畜購入のための貯蓄 家庭菜園ボランティアトレーニング モデル家庭菜園指導 全組合員対象家庭菜園トレーニング 女性リーダー会議	家庭菜園ボランティアフォローアップ 家畜ボランティアフォローアップ 第2回家畜ワクチン接種

【活動実施内容詳細】

<2村目 チューティール村女性組合：2000年7月開始>

IVYがスバイリエン州において女性相互扶助組合設立・運営支援を行 2村目の村として、本事業の方向性と村のニーズが合致した結果、スバイチュルン郡チューティール地区チューティール村が選ばれた。2000年2・3月に実施した基礎調査の結果分析等を経て、7月に入って本格的に活動を開始した。

●女性組合設立

7月上旬、村長・村の長老などから女性組合準備組織として IVYに協力してもらえる女性候補を挙げてもらった後、IVYがこれらの女性達と個別面接を行い、正式な女性組合発足までのアシスタントを務め、また組合発足後のリーダー候補となる準備委員の女性10名を選抜した。

7月28日、これら準備委員対象に IVYの活動や組合設立の主旨を理解してもらうためのワー

ワークショップを実施した。PRA 手法を用いて村の問題の所存を明らかにする話し合いを行った結果、女性達がお互いに協力し合うための組織作りを行うことが必要だ、という結論に達した。

8 月 23 日、準備委員との会議を開き、組合設立の主旨を再度確認した後、村の全女性対象に行うワークショップについて話し合った。さらに女性組合リーダーの役割を考え、リーダー選出選挙に立候補する意志があるかどうか確認を行った。

その間、村長を含む村の有識者（男性 2 人、女性 2 人）から成る選挙管理委員会を組織し、立候補者の資格条件、選挙規定、開催方法、日取りなどの案を作成した。

9 月 13～15 日、村の全女性を対象に準備委員に行ったものと同様のワークショップを実施した。みんなで協力すれば問題解決につながることへの意識付けを行った後、女性組合の主旨を説明して設立を促した。その結果、村の大部分の女性の賛同を得て実質的な女性組合設立となった。その後、選挙管理委員会より女性組合リーダー選挙についての説明を行い、資格条件等の確認後女性リーダーの候補者を募ったところ、既に候補として上がっている 10 名に加え、8 名が立候補する意志を表明した。ワークショップ終了後、組合員登録を行い、全 140 世帯中 125 人の女性が女性組合に加入した。

10 月 2 日、選挙管理委員会の立会いのもと女性組合リーダー選挙を実施した。事前に選挙管理委員会と I V Y で話し合ったところ、立候補者達のボランティア精神と意欲を最大限尊重し、人数の定員は設けず信任投票とすることに決まった。125 人の組合員中 113 人が投票を行った結果、立候補者 18 人中 18 人全員が最低得票数を獲得し、女性組合リーダーとして正式に当選した。

●女性リーダー養成講座と地域別住民集会

10 月下旬、選挙で正式に選ばれた女性リーダー 18 名を対象にリーダー養成講座を開始した。1 村目プレイチャンボック村では全 3 回の養成講座を行ったが、3 回のみでは組合運営の実務的な内容に偏り、本来の目的であるリーダーとしての自覚や責任感、自立心を向上させるまでには至らず、その後活動が停滞するリーダーも見られた。また、事業案についても女性リーダーだけで計画してしまうことは、本来の住民参加型からかけ離れており、計画段階から参加していない一般住民にとって「組合は何かをしてくれるところ」という意識をもたらしてしまう。

そこでこれらの反省を活かし、2 村目チューティール村においては当初の予定を変更し、この「リーダーへの最初の動機付け」と「計画段階からの住民参加」に十分な時間をかけることにした。住民とリーダーの地域別集会や住民への意識調査などを通して、リーダー達の「自分達が組合を運営していくのだ」という意識を育むと同時に、住民には自分達の声が組合活動に反映されていく過程を通して、自分もその活動の担い手の一人であるという主体的な意識を育んでもらいたいと考えた。

以下が、8 回にわたって行ったリーダー養成講座の内容である：

	実施日	対象者	目的・内容
第 1 回	10 月 25 日	女性リーダー・村長	・リーダー同士がお互いのことを知り合う ・女性組合の目的を確認する ・リーダーの役割を考える

第2回	11月8日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型組織の意義を考える ・ワークショップのファシリテーションの心得を学ぶ（その1ーファシリテーターの役割、話し方、立ち方等の注意） ・女性組合の名前を決める
第3回	11月23日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップのファシリテーションの心得を学ぶ（その2ー参加者からの意見の引き出し方） ・グループディスカッション実習：「村の問題ランキング」 ・女性組合のシンボルマークを決める
第4回	12月19日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・村の問題から解決策を話し合う ・一般組合員との集会に向けての準備 ・女性組合シンボルマーク入りTシャツ配布
組合員集会	12月27・28・29日	全組合員	・村の問題を挙げ、ランキングを行い、解決のためのアイデアについて組合員から意見を引き出す
第5回	1月5日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の決議のルールを作る ・組合員集会の結果を集約する ・村の問題の相関関係を考える ・組合として村の問題に総体的に取り組める事業についてアイデアを出し合う
第6回	1月25日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き事業案について意見交換を行い、内容を詰める ・事業案についての決議を行う ・女性リーダー内での役割を決める
組合員意識調査	1月末	女性リーダーおよび抽出された組合員	・任意に抽出した43人の組合員に対し、事業案についての意見を求め、その興味や実施の可能性を探る
第7回	2月8日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・組合員調査結果を集約し、さらに事業案を具体化する ・女性組合格約案を作る
第8回	2月22日	女性リーダー・村長	<ul style="list-style-type: none"> ・女性組合格約案の承認 ・事業案の確認 ・組合総会準備

このリーダー養成講座を通して女性リーダー達は会議中の発言や発表に物怖じしなくなり、人の意見を引き出したり、まとめたりするファシリテーション技術の他、徐々に参加型組織のリーダーとして「自分達が組合を運営していくのだ」という責任感や自覚、また仲間意識や助け合いの精神を身につけていった。

事業案に関しては、ディスカッションや地域別住民集会を通して出された「人間の病気」、「家畜の病気」、「野菜の不足」などの村の問題に、女性達自身が対処し得る解決策として、「家庭菜園と家畜飼育普及の2つの事業に組合として取り組むこととなった。家畜飼育に関しては、まず貯蓄をして家畜を購入することから始める、という提案を I V Yより行ったところ、貧しさのため貯蓄は出来ない人が多いのではないかという懸念が女性リーダーから挙がった。そこで事業案に対する組合員の意識調査を行い、事業への興味や実施の可能性を探ったところ、過半数の家庭が家畜購入のための貯蓄に興味があり、参加したいという結果が出た。そのため、出来るだけ貧しい家庭でも参加しやすい仕組みを作ることに留意した上で、貯蓄プログラムを実行することとなった。

尚、リーダー養成講座中に 4 人の女性がそれぞれ病気、母親が亡くなり家の仕事が忙しい、家の仕事が忙しい、プノンペンに働きに行く、などの理由で女性リーダーを辞退し、最終的に女性リーダーは 14 人となった。

● 女性組合総会

3 月 1 日、第 1 回女性組合総会が実施された。女性リーダー達がファシリテーターを務め、組合の名称（サンシャイン組合）とシンボルの紹介、役員紹介、組合規約の承認などを行った後、地域別集会や意識調査の結果発表、そして事業案が発表され、家庭菜園および家畜飼育の 2 つの事業案が承認された。それぞれの事業の普及員を果たす家庭菜園ボランティア、家畜ボランティアの立候補者の募集も行われた。

総会の出席者は全組合員 125 人中、52 人と少なかった。これは、9 月の組合設立ワークショップから約半年が経過しており、女性組合への興味が失せてしまった女性も多くいたことがその主な理由と考えられる。チューティール村では女性リーダー養成講座に時間をかけたため、総会実施がこの時期になってしまったが、今後新たな村で活動を行う際は養成講座をもっと密にして期間を短くする、などの対策が必要と思われる。しかし、出席した女性達はみな強い興味を持って積極的に会議に参加していた。女性リーダー達も初めて大きな会議でのファシリテーター役を堂々と務めることが出来、達成感に満ち溢れた表情をしていた。

● 貯蓄ワークショップ

3 月 22 日、I V Y の提案による家畜購入のための貯蓄の仕組みについて女性リーダーと話し合い、実際にその仕組みを理解するためにシミュレーションを行った。

貯蓄の仕組みについては、まず組合員同士で 5 人から 7 人のグループを作り、毎月月初めに一定額を貯蓄し、グループリーダーが集金して組合に預ける。貯蓄が出来ないメンバーがいる場合はグループ内で貸し借りをを行う。一定期間の貯蓄が終了したら I V Y から女性組合を通じて助成金を支給し、全メンバーが 1 週間以内に家畜を購入する。貯蓄グループは以下のいずれかのコースを選んで貯蓄を行う。期間が長ければ長い程助成金の割合が高くなっており、また全ての貯蓄額にはワクチン接種代も含まれる。

豚コース

期間	1 ヶ月の貯蓄額	貯蓄額合計	I V Y 助成金
7 ヶ月	4500 リエル	31500 リエル	24500 リエル
10 ヶ月	2800 リエル	28000 リエル	28000 リエル
12 ヶ月	2100 リエル	252000 リエル	30800 リエル

鶏コース (2 羽分)

期間	1 ヶ月の貯蓄額	貯蓄額合計	I V Y 助成金
7 ヶ月	1000 リエル	7000 リエル	6000 リエル
10 ヶ月	600 リエル	6000 リエル	7000 リエル
12 ヶ月	400 リエル	4800 リエル	8200 リエル

その後 4 月 19 日に女性リーダーと再び会議を持ち貯蓄の仕組みと規約を確認し、さらに全組合員対象の貯蓄ワークショップの開催に向けて準備を行った。

4 月 20 日、全組合員対象貯蓄ワークショップを開催し、女性リーダーのファシリテーションのもと、貯蓄の大切さ、貯蓄とクレジットの違い、クレジットの危険性などを話し合い、またワクチンに関する基礎知識、さらに各自が今後家畜飼育の計画を立てる手助けとなるよう、豚と鶏の飼育コスト・収入比較を行った。その後、貯蓄の仕組みを理解するためのシミュレーションを行った。このワークショップには 63 名の女性が参加し、全部で 9 組（47 名）の貯蓄グループ（豚 12 ヶ月コース 5 グループ、豚 7 ヶ月コース 1 グループ、鶏 7 ヶ月コース 3 グループ）が登録を行った。

尚、もう 1 グループ、鶏 12 ヶ月コースを希望している女性達がいたのだが、この女性達はみな貧困家庭で、貯蓄を始める段階になって「やはり貯蓄はできない」と解散してしまった。この貯蓄プログラムは鶏を購入することも出来ない貧困家庭にこそ参加してもらいと長期間の鶏コースにはより有利に設定したのだが、月 400 リエルの貯蓄でも、特に乾季の金が不足する時期には、貧困層にとっては厳しい額のようにあり、残念ながら彼女達の参加を得ることは出来なかった。

● グループ貯蓄開始

5 月 1 日より 9 組の貯蓄グループの貯蓄活動が開始した。各グループのグループリーダーが集金した貯蓄金を貯蓄担当の女性リーダーが預かり、それをさらに I V Y の事務所で預かっている。2001 年 8 月現在、各グループとも特に問題なく、毎月決まった額を貯蓄出来ており、11 月には 7 ヶ月コースの 4 グループが貯蓄を終え、家畜を購入する予定である。

● 家庭菜園ワークショップ・トレーニング

女性組合総会での募集に対し、20 数名の女性達が家庭菜園ボランティアとして名乗りを上げた。こららの女性に対し、5 月 23 日、ワークショップを開催し、家庭菜園の意義、野菜を食べることの重要性、村で植えるのに適している野菜、家庭菜園ボランティアの役割などについて意見交換を行った。

家庭菜園ボランティアは、自らの技術向上のみでなく、近所の人達に自分の菜園を見せたり、アドバイスを行ったり、種を分けたりすることを通して家庭菜園普及に貢献するのがその大きな役割であるが、1 村目プレイチャンボック村では周辺への普及まで発展するのがなかなか困難であった。そのため、チューティール村では最初からトレーニングに「普及員としての役割」が意識付けされるような内容を盛り込むよう留意した。

さらに、1 村目では I V Y の管理するモデル菜園を 1 ヶ所設けたが、周辺家庭への普及、また種の生産ということも考慮してチューティール村では家庭菜園ボランティアの中から選抜してモデル菜園を数ヶ所に設け、その管理はボランティア自身が行い、I V Y は種の支給や技術指導のみを行う、という方向に変更した。

引き続き 6 月 13 日、家庭菜園ボランティア対象の第 1 回目のトレーニングを実施した。内容は栄養に関する基礎知識の他、家庭菜園の設置場所やデザインの仕方、マメ科の有用性などについてである。その後モデル菜園にて実践トレーニングの後、雨季に適した野菜の種の配布を行った。

その1週間後の6月20日～22日、一般組合員を対象とした同内容の家庭菜園トレーニングを地区別に開催した。家庭菜園ボランティアには普及員としての初めての仕事として、近所の女性達にトレーニングの日時を知らせ、参加を募る役割を任せ、その結果3日間で58名の参加があった。

20数名の家庭菜園ボランティアについてはその後、7月26日の会議で再度その役割や責任を確認したところ、忙しくて出来ない、という女性も出てきたため、話し合いの結果最終的に13名が正式に家庭菜園ボランティアとなった。さらに家庭菜園ボランティアリーダー1名および副リーダーが2名、選出された。

● 女性リーダー会議

女性組合総会後、4月19日、5月29日、6月29日と月1回の女性リーダー定例会議を開催してきた。内容は4月は貯蓄の仕組み確認と貯蓄ワークショップの準備、5月・6月は女性リーダー役員の役割・責任の確認、各事業の進捗状況報告、予定確認などである。会議の内容や進行についてはまだIVYの手助けが相当必要であるが、徐々にリーダー達が自分達で議事進行を進められ、IVYはオブザーバーに止まることが出来るよう、引き続き指導が必要である。

<1村目 プレイチャンボック村女性組合：99年7月開始>

1村目プレイチャンボック村では、これまでの家畜と家庭菜園プログラムを継続・発展させ、女性リーダーを中心とした村の女性達が主体的に活動に参加・運営していくことを促してきた。

● 家畜購入のための貯蓄

2000年3月より始まった「家畜購入のための貯蓄」が引き続き7月、8月と行われ、8月1日の貯蓄集金・IVY助成金支給日をもって14グループ、70人の貯蓄が全て終了した。家畜購入総数は豚が60頭、鶏が20羽（鶏は一人につき2羽）となった。家畜の飼育に関しては貯蓄グループ参加者に向けてIVY家畜指導スタッフによる家畜飼育講座を実施し（4月、5月、6月）、また随時訪問指導などを行った。

しかし、村で豚の病気が蔓延したこと、また世話の仕方、餌の不足などの基礎的な家畜飼育技術の欠落のため、貯蓄プログラムで購入した豚の飼育結果は芳しいものではなかった。11月末に行った調査の時点で既に60頭中10頭の豚が病気や中毒により死亡しており、その後も2頭が死亡した。また、売却の目安となる80kgに満たないうちに病気で手放された豚が13頭、残りの豚も餌代や治療代などでほとんど収益を得るには至っていない。こうした問題は女性リーダー会議でも議題となり、新しい家畜プログラムの仕組み作りへと発展した。

● 家庭菜園ボランティア会議

9月9日、家庭菜園ボランティアによる家庭菜園プログラムの評価を行い、成果および問題点の確認を行った。以前と比較して「野菜を多く食べるようになった」、「健康になった」など多くの成果が挙げられた一方で、種・水源・技術の不足、害虫など依然として多くの問題があることも判明した。また、村全体で見た家庭菜園の浸透度はまだ不十分で、家庭菜園ボランティアが近所の人々に与える影響も少ないことが指摘された。このことから家庭菜園ボランティアを組織化し、情報や知識の交換を

活性化させようということになった。読み書きの出来るリーダー 3 名が選出され、月 1 回程度の会議を設けることになった。

● 女性リーダー会議

2000年6月に行われたリーダー会議で、これまで約半年間実施されてきた家庭菜園普及と家畜飼育普及の二つのプログラムに対する評価を行い、その成果及び問題点を話し合ったところ、一番の問題点として家畜の病気の蔓延、及び基本的家畜飼育技術の欠落という点が挙げられた。また、村の貧困層の人々の参加が難しい、という点も挙げられた。さらに、女性組合が今後自立して活動していくためには独自の資金作りを行う必要があるという点も指摘された。これを受けて7月以降、家畜の病気の問題解決と同時に女性組合の収入作りのための企画を中心に、引き続き女性リーダー会議を行った。7月以降10月中旬までの女性リーダー会議の主な内容は以下の通りである：

- 7月11日 女性組合の資金作り
豚コレラ（6月に村で蔓延）についての基礎知識
家畜の病気の解決策
村の最貧困者のお年寄りへの支援について
- 8月2日 ワクチンと治療薬の違いについての基礎知識、値段比較
IVYよりワクチン接種の仕組み作りの提案
家畜銀行について
- 8月24日 家畜購入のための貯蓄プログラム最終報告
豚と鶏の収入比較（IVY調査）
- 9月1日 家畜銀行の仕組み確認
家庭菜園の状況報告
家庭菜園の問題点について
家庭菜園ボランティアの組織化について
家庭菜園ボランティアの追加人員
- 10月6日 ワクチン接種の仕組みについて
ワクチンの種類、値段比較
- 10月11日 第2回総会準備

今まで行ってきた家畜普及プログラムに改善を加え、さらに女性組合として今後の運営資金を作り出す必要性も考え併せた結果、これまでの貯蓄プログラムに参加出来なかった貧困家庭、及び病気で家畜を無くしてしまった家庭のための家畜銀行（女性組合より家畜を貸し出し、借主は売却金の半分を組合に返済）、また治療よりも予防することを重視した家畜のワクチン接種の仕組み（グループを組んで豚のワクチン接種を行い、売却後組合に返済）の導入、さらに村で家畜飼育の基礎的な技術を普及する家畜ボランティアの育成についての案が挙がり、企画・検討を重ね、10月下旬の組合総会での発表に備えた。

● 第2回女性組合総会

10月19日、プレイチャンボック村女性組合第2回目の総会が開催された。雨天にもかかわらず、89名の組合員が会場である村長の家の軒下に集まった。家庭菜園と家畜プログラムの進捗状況や問題について女性リーダーが発表し、組合員との意見交換を行った。その後、これまで家畜プログラム

で発生した家畜の病気や、貧しくて貯蓄グループに参加できなかった人達がいたことなどの問題への対応策として、家畜銀行、ワクチン接種、家畜ボランティアの育成の新プログラムについて発表を行った。これら新プログラムは参加者ほぼ全員の賛同を得て承認され、さらに詳しい説明会の実施日時を発表した。この後、これまでの家庭菜園トレーニングや貯蓄ワークショップなどの活動をビデオ録画したものを上映した。村でビデオを見せるのは初めてであったが、参加者はみな食い入るように画面を見つめ、時折自分の姿を見つけては歓声が沸き上がっていた。

総会終了後、女性リーダーとの評価会を行い、リーダー達の感想や組合員の反応について話し合った。リーダー達は非常によくファシリテーター役を務められており、話し方や説明の仕方なども明瞭であったが、さらに今後改善すべきポイントなどについて I V Y より助言を行った。

●全組合員対象ワクチン、家畜銀行に関するワークショップ

10月27日、ワクチン接種と家畜銀行に興味のある組合員を対象にその説明会を行い、84名の組合員が参加した。ワクチンといってもこれまでに村で家畜のワクチン接種は一切行われておらず、ワクチンに対する理解も非常に低かったため、まずワクチンとは何か、という基礎的な説明から始める必要があった。一方、女性組合が家畜を貸し出し、借り手が売却金の半額を返却するという家畜銀行（現地では PROVAS と呼ばれる）は、村でも日常的に行われている方法であるため、参加者の理解も早かった。さらにこのワークショップで家畜ボランティアの立候補者を募った。

引き続き11月14～16日、今度は地区別にさらにワクチンについての理解を深め、また家畜銀行・ワクチン接種の仕組みを理解するためのワークショップを実施した。3日間で63人の参加者があった。家畜銀行とワクチン接種の仕組みについてシミュレーションを行った後、ワクチン接種グループと家畜銀行への参加希望者の登録を開始した。

●家畜ボランティアトレーニング

家畜ボランティアには家畜飼育の経験、読み書きや計算の能力、ボランティアで村の家畜普及員として働く意志などから8名の立候補者中6名が選抜された。家畜ボランティアの役割としては家畜の基礎的な飼育技術やワクチン・治療などについてトレーニングを受け、村の家畜普及員として基礎的な飼育技術について周辺の住民にアドバイスを行ったり、村でのワクチン接種や治療を補助する、というものである。トレーニングは I V Y 家畜指導スタッフによって11月より6ヶ月間、1ヶ月に3日間という日程で行われた。

尚、プレイチャンボック村には政府が行うトレーニングを2000年末に受講し、政府から認定を受けた獣医が一人いたが、知識・経験の不足から誤診断や治療薬の誤用により、多くの問題が発生していた。そのため、この獣医にも家畜ボランティアに向けたトレーニングと一緒に受けてもらい、今後ワクチン接種や治療などで女性組合・家畜ボランティアとの協力体制を築いていくことになった。

家畜ボランティアトレーニングの主な内容は以下のとおりである：

実施日	主な内容
11月28～30日	家畜飼育の利点と問題点 豚飼育の基礎技術（選び方、餌、飼育環境） 鶏飼育の基礎技術（選び方、餌、飼育環境、交配と繁殖） 家畜の病気の分類と特徴（伝染病、一般的な病気、寄生虫）

	病原の感染サイクル 鶏の病気の分類 豚の病気の分類
12月19～21日	ワクチンについて ウィルス・バクテリアとは何か 免疫作用について ワクチン接種の準備、器具の使い方、保管方法 ワクチンの接種量、接種方法
1月23～25日	前回の復習 ワクチン接種の実践
2月20～22日	家畜の一般的な病気－下痢、便秘、熱、食欲不振、中毒、けが－その症状と治療法
3月20～22日	家畜の伝染病について 一般的な病気との見分け方 抗生物質の使用方法和注意点 豚の伝染病－その症状と治療法 鶏の伝染病－その症状と治療法
5月1～3日	母豚の飼育法 出産と子豚の飼育 家畜飼育プランの立て方 これまでの復習

1月下旬にはトレーニング内容の実践の場として村での第1回ワクチン接種、また3月13日には家畜銀行の借り手を対象に、3月28～29日には全組合員を対象に基礎的飼育技術のトレーニングが実施され、家畜ボランティアは一部ファシリテーターを務めた。尚、I V Yは3月に家畜飼育の適切な環境と飼育方法を見せるためのモデル豚舎と鶏舎をそれぞれ2ヶ所ずつ、村の住民の家に設置したが、これらのモデルは家畜トレーニングの会場としても使用された。

●家畜銀行

家畜銀行の仕組みは、I V Yの助成により女性組合が購入した家畜を貸し出し、借り手は家畜の飼育を行い、豚の場合は売却後に売上げの半額を、鶏の場合は貸し出した数を倍にして組合に返却する、というものである。家畜貸し出しは初回は豚20頭、鶏100羽に限定したが、特に豚の貸し出しの希望者が多かったため、貧しくて先の貯蓄プログラムに参加できなかった人、貯蓄プログラムで豚が死んでしまった人、あるいは現在豚を飼っていない人、という優先基準を設け、希望者の豚所有状況等を調査した上で20人を選抜した。鶏の貸し出しを希望した人の中には最貧困層で、先の貯蓄プログラムに参加できなかった人達も含まれた。

1月中旬、豚20頭、鶏100羽の貸し出しを開始したところ、購入直後に豚が3匹、先天性疾患と思われる病気で死んでしまったが、それ以降はワクチン接種(1月下旬)や飼育方法に関するトレーニング(3月13日)などを行ったこともあり、8月現在、豚は17頭、鶏は100羽が無事に育っている。しかし、度々の飼育指導やフォローアップにもかかわらず、やはり餌の慢性的な不足や基礎

的な世話が出来ていないことから豚の成長率は極めて遅く、8月現在でまだ25kg~35kg程に止まっている。女性リーダーおよび家畜ボランティアの分析によると、もともと自らの資金で購入した豚ではないため、大きく育ててコストを回収しよう、というインセンティブが少ないのではないかと、いうことである。当初の予定としては10月くらいから豚の売却が始まれば、1頭を70kgで売ることにより約\$25が女性組合に返却され、将来的に女性組合が家畜貸し出しを続けるための回転資金および組合運営資金として使用される見込みだったが、当初の概算を大幅に下回る可能性が高いことから、さらに今後の対応策、改善策を考える必要が生じてきた。

●家畜ワクチン

ワクチン接種グループには8グループの登録があった。ワクチン接種グループの仕組みはまず豚のワクチン接種を受け、豚を売却した後にワクチン代を組合に返却し、支払えないメンバーに関してはグループで責任を負う、というものである。鶏のワクチンについては低価格で数も多いことから個別に希望者が接種を受け、その場で代金を支払うということになった。

1月下旬に第1回目のワクチン接種がIVYスタッフの指導のもと、家畜ボランティア及び村の獣医の協力で行われた。当初、ワクチン接種を希望していた登録数は豚が98頭、鶏が271頭であったが、最終的にワクチン接種を受けたのは豚35頭、鶏149羽であった。この減少の理由としては接種の時期が遅れて当初接種を希望していた豚が大きくなりすぎてしまったこと、コストが高かったこと、ワクチンに対する理解が低かったことなどがある。

その後、乾季に入り家畜の病気が発生しやすくなると、ワクチンを受けた家畜と受けていない家畜との違いが顕著に現れた。特に鶏に対するワクチン接種は「もったいない」と感じる人が当初は多かったが、ワクチン接種を受けた鶏の病気への抵抗力が顕著に現れると、住民のワクチン接種に関する関心が高まった。さらに今まではプノンベンよりタイやフランス製のワクチンを購入していたが、スバイリエン州でベトナム製の安価なワクチンの入手が可能になったことでより多くの人に参加しやすくなった。5月25日には組合員対象に第2回ワクチン接種に関する説明会を実施し、第1回目にワクチン接種を受けた人による発表や意見交換を交えた後、6月下旬に行われた第2回ワクチン接種では接種を受けた家畜の数が豚41頭、鶏434羽と増加した。

●家庭菜園トレーニング

10月13日の家庭菜園ボランティア会議に引き続き、11月17日に家庭菜園ボランティアトレーニングがIVYスタッフより実施された。内容は乾季向けの野菜の栽培方法で、稲刈りの忙しい時期にもかかわらずボランティア達は熱心に意見交換を行った。その後モデル菜園にて実践トレーニングの後、種が配布された。

引き続き12月26日の家庭菜園ボランティア会議では乾季向け野菜の栽培に関する問題等の話し合い、また家庭菜園ボランティアの役割確認、そして全組合員対象トレーニングに向けての役割分担および準備を行った。その後、1月9~11日の3日間、3地区に分けて全組合員対象の家庭菜園トレーニングを行った。このトレーニングは家庭菜園ボランティアが3組に分かれてファシリテーターを務めた。内容は11月のボランティア対象のトレーニングをほぼ同じものとし、ボランティア達は自分の体験に基づいて乾季向けの野菜の栽培方法などを活発に発表し、参加者との意見交換を行った後、モデル菜園での実践トレーニングを行った。このトレーニングには3日間で61名が参加し、一

般組合員の中でも家庭菜園作りに高い関心を持つ人が多いことが伺えた。家庭菜園ボランティアにとっては初のファシリテーター役であったが、大勢の人を前にしても緊張することなく、経験に裏付けられた自信と冗談をとばす余裕を持ってトレーニングの進行役を務められた。参加者にとっても、同じ村の女性が自らファシリテーターを務めたり、自分の体験を語ることは非常に刺激となるようで、興味深く聞き入り、ディスカッションに参加していた。

さらに、3月23日には家庭菜園ボランティアを対象とした栄養講座を実施した。これは家庭菜園ボランティア達よりかねてからリクエストのあったもので、野菜に含まれる栄養素、ビタミンやミネラルの働き、その欠乏症から起こる身近な病気などがポスターや絵カードを多用して説明された後、ボランティア達が持ち寄った野菜やモデル菜園で採れた野菜を使って新しい調理法を提案する試食会を行った。

●女性リーダー会議

10月19日の女性組合総会以降、女性リーダーは I V Yと共に家畜銀行とワクチン接種の2つの新プログラム開始に向けた規約作りや運営方法、また進捗状況の確認や懸案・問題点についての話し合いを行ってきた。

以下がその主な話し合いの内容である：

- 11月13日 ワクチン・家畜銀行に関するワークショップの準備
 家畜ボランティアの選定
- 12月7日 ワクチン接種の日程
 ワクチン登録者数の確認
 貸し出し用家畜の購入方法
 モデル豚舎・鶏舎の建設について
 トレーニング日程
- 1月4日 ワクチン登録者数の確認
 ワクチン接種グループの規約確認
 家畜銀行の規約確認、契約書作成
 家畜貸し出し日程
 女性リーダーの手当てについて
 女性リーダー会計トレーニングについて
 I V Yより組合用掲示板の贈呈
- 2月23日（家畜ボランティアとの合同会議）
 家畜銀行の状況報告
 家畜銀行の運営について
 家畜の治療費に関する方針作成
 家畜銀行の借り手対象会議の準備
 I V Yによるモデル豚舎・鶏舎見学
- 5月10日（家畜ボランティアとの合同会議）
 第1回ワクチン接種の規約と結果確認
 ワクチンに対する住民の理解度について
 第2回ワクチン接種の仕組みについて

ワクチンのコスト変更について
第2回ワクチン接種の日程
第2回ワクチン接種説明会の準備

この他、必要に応じて随時女性リーダーは家畜銀行やワクチン接種の運営実施、進捗状況、問題点などについて I V Y と個別に話し合いを持った。

【援助事業の効果】

今まで村の中での活動の場が限られていた女性達が、自分達のグループを作って活動を行うことにより、女性達の中には明らかに能力と経験の向上に裏付けられた活気や自信、そして意識変化が生まれてきている。農村女性の意識の活性化、能力の向上は、村全体の活性化にもつながり、村としてのまとまり、人間関係の結びつきが強まっている。また、村の諸問題を解決していく上で、これまでの男性中心の考え方、対処方法に新しい方向性を見つけることが出来たことで、収入不足や食糧不足などの現実的な問題の緩和にもつながっている。

<チューティール村>

2村目チューティール村では、女性リーダー養成において、1村目でリーダーとしての意識付け、また一般組合員との関係作りが足りなかったことの反省から、約5ヶ月間、8回に及ぶリーダー養成講座を実施した。その結果、参加型組織の意義への理解やファシリテーション技術の習得と共に、リーダーとしての自覚や責任感が育まれ、またリーダー同士の結束や助け合いの精神が強化された。始めは人前に出るとおどおどと恥ずかしがっていた女性達も、住民集会や総会、その後のワークショップなどで進行役を果たしたり、いきいきと村の問題や将来への希望について語れるようになってきた。

14人のリーダー達は養成講座の時から「会議が待ち遠しい」、と非常に積極的に参加しているのが印象的であったが、自分達が楽しむのと同時に、村の人々の生活を良くするためにはどうしたらいいか、ということを実際に話し合い、一般組合員とも度々対話しながら検討してきた。また、全員とまではいかないが、一部の一般組合員にとっても、住民集会や意識調査などで自分達の声が組合の事業作りに反映される体験を通し、その主体的参加意識を育むことが出来たのではないかと考える。

現在、チューティール村では家庭菜園プログラムと家畜購入のための貯蓄プログラムが既に開始しているが、このプログラムを成功させるために、女性リーダー達は農作業や子育てや家事で忙しい中、一生懸命にワークショップのファシリテーターを務めたり、全組合員に情報を伝達したり、また個別に近所の人に説明をしたり、と努力をしている姿が見られる。家庭菜園・貯蓄ともその参加率こそ1村目プレイチャンボック村と比較するとまだ少ないが、プレイチャンボック村での1年目は、ワークショップやトレーニングの情報伝達も I V Y がスピーカーなどを使って手伝ってしまうことが多かった。その反省を踏まえ、チューティール村においては情報伝達は女性達自身が行う、という原則でやってきたのだが、女性達が村内を一戸一戸回り、プログラム参加者を集めたことの意義は大きい。

貯蓄プログラムにおいては現在47名が参加しており、5月1日以来、毎月貯蓄を行ってきたが、この活動を通してグループ内の信頼感や相互扶助意識、さらに女性組合への信頼が生まれてきている。今後あと数ヶ月貯蓄が続くことになるが、予定通り貯蓄活動を完了することにより、今まで何か目的を持って貯蓄をする、ということが皆無であった参加者の女性達には大きな達成感をもたらすことで

あろう。と同時に、女性達が自分自身だけでなく、子供や親も含む家族全体にとって収入向上につながる活動をもたらすことで、女性達の家庭内での地位向上にもつながると考えられる。

家庭菜園プログラムにおいては最終的に 13 名の家庭菜園ボランティアが選出され、彼女達を中心に村の家庭菜園活動も活発化している。家庭菜園ボランティアには経験豊富で意欲的な女性達を選んだこともあり、彼女達のトレーニングの理解力は非常に高く、トレーニングで得た柵や水路や畝作りの知識を早速活かした菜園作りに取り組んでいる。第 1 回家庭菜園トレーニングに参加した一般組合員も意欲が高い熱心な女性達が多く、また夫のいる家庭では夫達が柵や水路作りに協力しているところも見られ、妻と夫の協力関係作りに一役かっているようだ。モデル菜園、家庭菜園ボランティアを中心に、良く出来ている例を見ることによって、今後さらに周辺の住民への広がりが見られることだろう。

<1 村目：プレイチャンボック村>

1 村目プレイチャンボック村では、女性組合の自立運営に向けた第四段階にさしかかっている。女性リーダーの中には 1 年目の途中から興味を失いかけた女性もいたが、貯蓄プログラムの評価、反省から次の活動へと発展していく中で、徐々に「自分達が作る活動」という意識が高まってきた。

今年度、新たに始まった家畜銀行、ワクチン接種、そして家畜ボランティアの育成は女性リーダーにより提案された案を具体化したものであるが、こうした経緯からも女性達の自立意識や主体的参加意識の向上が伺える。また、プログラム作りの中で村の貧困層の人々がより参加しやすいように、という配慮がなされたり、身寄りのない貧しいお年寄りへの支援が女性リーダーの自発的な提案により実現したことなどもあり、自分だけが豊かになるのではなく、共に助け合おう、という精神が確実に根づきつつあることが伺える。

実際のプログラム運営にあたっては、女性リーダーの果たす役割が大きくなり、組合員に向けてのワークショップや説明会の進行役、また家畜銀行やワクチン接種の名簿や会計管理、フォローアップなども女性リーダーが自分達の役割と認識し、責任感を持って行っている。

家庭菜園普及、家畜飼育普及それぞれのプログラムにおいて、I V Yではまずボランティアの育成を行い、そのボランティア達から一般組合員への情報伝達が行われる、という二段階での普及を目指してきた。ボランティアへのトレーニングの過程においては、自分達の知識向上のみではなく、村の他の人々に広げるといった役割への意識付けを行うように留意しながら、ボランティア達による一般組合員へのトレーニングの機会なども多数設けてきた。その結果、ボランティア達には「普及員」としての自覚と同時に、女性リーダーと協力し合うことにより、自分達が今後の活動継続へのカギを担っているという自覚も見られるようになってきた。

一方、他の一般組合員にとっても、女性組合の意義および活動は着実に村内に根づき、その生活の一部になりつつあることは、全ての活動における高い参加率からも見る事が出来る。

収入向上面からもいくつかの成果が現れている。家庭菜園プログラムでは、既に家庭菜園ボランティアを中心に 1 年間を通して野菜が収穫できる家庭菜園が多くの家庭で実現している。野菜の自給、そして野菜を多く摂取することによる病気の減少などの他に、余剰分を市場や村内で売る女性達も増

えてきており、家計への助けとなっている。家畜プログラムでは豚の飼育はなかなか収入に結びつくには至っていないが、鶏の飼育はワクチン接種を導入して死亡率が大幅に減ったこともあり、確実に増やしていけるため収入へとつながっており、村では養鶏の人气が急速に高まっている。村のある最貧困層の女性は、今まで鶏を飼ったことがなかったが、家畜銀行で借りた2羽の鶏から多くの雛が誕生し、元気に育っている。

尚、組合設立当初、女性達が会議やトレーニングに参加するのに良い顔をしなかった夫や母親達も快く彼女達を送り出すまでになっている。その理由としては、村内に設置した掲示板に写真を貼って組合の活動を紹介したり、トレーニングやワクチン接種の日程を知らせる、といったことで組合員以外への認知をはかってきたことなどもあるだろうが、何よりも家族全員が家庭菜園や家畜飼育の各プログラムの成果、あるいは女性達が自信を持ち、生き生きと明るくなったことによる直接の恩恵を感じているからであろう。8月初旬に行った女性リーダーとの評価会において、組合活動の開始前と現在のポジティブな変化、という点について彼女達自身に評価を行ってもらったところ、「生活が楽しくなった」、「自信がついた」、「意見が言えるようになった」、「家庭菜園、家畜飼育の技術が身についた」、「収入が向上した」などの他、「村内の女性同士の交流が増えた」、「夫とのコミュニケーションが増えた」、「家族の関係が良くなった」、「家庭内暴力が減った」など、人間関係に関する変化への認識が予想以上に顕著に見られた。家庭菜園、家畜飼育など個々の活動の成功ということも大切ではあるが、何よりも協同組織に参加し、他の女性達と交流し、新しい知識をつけることのプロセスそのものを通して、女性達に大きなエンパワーメントがもたらされていることが伺える。

【今後の課題】

IVYスバイリエン事業は1村3年間の活動サイクルを予定しているが、引き続き各村ともその段階に応じて家庭菜園と家畜飼育プログラムを継続・発展させながら、将来女性達を中心となって女性組合を自主運営していけるようにIVYがこれまで担ってきた牽引の役割を徐々に女性達にシフトさせていきたいと考えている。

<2村目：チューティール村>

2村目チューティール村では女性リーダーの養成を時間をかけて丁寧に行った甲斐もあり、彼女達のやる気は見ていて頼もしい程である。一方で、組合の発足からリーダー養成に時間をかけすぎて他の組合員が興味を失ってしまった、という反省点がある。住民集会や意識調査など、女性リーダーとの接点を設けてきてにもかかわらず、女性組合の主旨や目的がまだよく浸透しているとは言えない状況で、「女性組合は自分達に物をくれたり何かをしてくれるところ」という一方的な受益者であるという誤解もあるようだ。また、プレイチャンボック村と比較すると、これまで外部との接触が少なかった村であるため、もともと女性組合やIVYに対して懐疑的で、とりあえず活動の様子を遠目に伺い、良い結果が出たら参加する、といった慎重な住民が多いのも特徴である。

従い、チューティール村の今後の課題としては、まず女性リーダー、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティアの育成と意識付けを確実に行うと同時に、彼女達と一般組合員のつながりを作っていくことが必要である。リーダー格となる女性達が他の組合員の家に直接足を運んだり、トレーニングで接することにより、他の組合員の中でも「やってみたい」という興味生まれ、少しずつでも着実に活動の輪が広がっていくよう配慮していきたい考えである。

同時に、貧困家庭や未亡人などが参加しやすいプログラムや雰囲気作り、ということも重要である。チューティール村はプレイチャンボック村と比較しても貧しい家庭が多く、貯蓄プログラムにおいては貧しい女性でも参加しやすいよう考慮したにもかかわらず、最貧困層の参加は今のところ見られていない。今後さらにプログラムの企画や進め方に関しては貧困層への視点を常に取り入れるようにすると共に、貧しい女性達への参加への働きかけも必要である。この点においては、チューティール村の女性リーダーや家庭菜園ボランティアの中には貧困家庭、もしくは未亡人の女性も含まれるため、彼女達には貧しい家庭の抱える問題点、ニーズがよく理解できるであろうし、今後ロールモデルとなって周辺住民の参加への意欲を促す役割をしてくれることを期待する。

<1村目：プレイチャンボック村>

1村目プレイチャンボック村においてははいよいよ3年目に入り、将来への活動の継続と女性組合の自主運営に向けた正念場となる。これまで、女性リーダー、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティア、そして一般組合員共々、意欲的に組合活動に参加しており、確実に能力および意識の変化が見られる。

が、一方で、未だどこかで「IVYが何とかしてくれる」という意識がぬぐい去れず、女性リーダーなどは頭では「自分達の仕事」と理解していても、実際にはIVYに立案や運営管理の大部分を頼ってしまっているのが実情である。これにはIVYスタッフの彼女達との関わり方への反省もある。実際、IVY側で仕切ってしまう方が効率良く、失敗も少なく確実であるため、たとえ失敗しても女性達に任せる、ということを感じていたことが大きい。

この状態を打開するためには、今後IVYが意識して、女性達の自立促進のために一步退く、そして時には突き放していくということも必要であろう。もちろん一度に全て女性達に任せる、ということは不可能である。会計や運営管理、ファシリテーション技術、問題解決などまだ能力が足りない部分へのトレーニングや支援を続けながら、徐々に女性達へ役割と責任の移行を図っていく必要がある。

また、個々の活動においてもこれまで家庭菜園ボランティアと家畜ボランティアにはIVYが直接関わり、女性リーダーには事後報告、というような場合もあったが、今後は女性リーダー、家庭菜園ボランティア、家畜ボランティア、という女性組合の格となる部分がそれぞれ有機的に関わり、機能するようにしていかなければならない。そのためにはやはり女性リーダーが今以上のリーダーシップと責任を発揮し、各プログラムをまとめられる体制を作っていく必要がある。

さらに、家庭菜園ボランティアと家畜ボランティアの「村の普及員」としての役割も、意識向上は見られるものの実際の働きではまだ十分とは言えない。普及員としての彼女達の役割を具体化していくためには、IVYがお膳立てしたトレーニングを一般組合員に向けて行ってもらうのみではなく、普段からボランティアが各家々を訪問指導したり、また村の人々もボランティアのところに直接相談に訪れるような双方の交流を作り出していかねばならない。そのためには、今後IVYから一般組合員への直接の指導を出来るだけ控え、ボランティア達の村での認知度を高めながら、彼女達に徐々に責任を移行していく必要があるだろう。

具体的な対応策としては、女性リーダーの月一度の定例会議に家庭菜園ボランティアと家畜ボラン

ティアからも代表が出席し、進捗状況や問題点の報告、新たな活動の提案などを行う、ということが挙げられている。また、今までは I V Yがこの会議を召集し、議事内容を決めている状況だったが、今後は徐々に I V Yはオブザーバーに止まり、さらには出席を減らし、女性達から要請のあった際に顔を出し、女性組合と対等な立場で話し合う、という方向性でいく予定である。

さらに、女性組合が真に自立に向かうには、組合の収入作りも含めた持続的な仕組み作りが不可欠である。組合の運営資金作りとして始めた家畜銀行は貸し出した豚の成長が思わしくなく、当初予定していた収入は見込めなくなってきた。まず女性達がこの事態を把握し、真剣に受け止め、原因分析を行い、それに代わる収入作りのための案を出せるよう促していきたい。また家庭菜園用の種の入手や家畜のワクチン接種などについても、どうしたら今後自分達だけで活動を継続していくことが出来るのか、持続的な仕組みの案が女性達から出てくることを期待している。

最後に本事業では、家庭菜園や家畜飼育など、個々のプログラムを通して人材育成、各家庭の収入や自給率向上に寄与することはもちろん、村の女性達が有機的な仲間を得ながら、力を合わせて村の問題を解決しようとしていくプロセスそのものが極めて重要であると考え。そのため、失敗や問題の発生も、女性達や組織の成長のためには大切な機会であると捉えられる。ともすると I V Y側でも個々のプログラムの数量的な成果、ということに執着しがちであるが、今後はますますこのプロセスそのものを大切にしていける姿勢が、女性達の、ひいては村全体の自立にとって必要であると考え。

4 現地の人々の反響・意見

資料1

家庭菜園プログラム評価～「家庭菜園プログラムを実施する前と実施後（現在）の変化について」

実施日：9月9日

場所：プレイチャンボック村

評価参加者：プレイチャンボック村家庭菜園ボランティア 28名

家庭菜園プログラムを実施する前と実施後（現在）の変化について、まず参加者に3～4名の小グループに分かれて話し合ってもらい、最後にみんなで分かち合うために一つの表にまとめたものである。

	実施前	現在
家庭菜園状況	野菜の種類が少なかった 小さな狭い菜園だった 柵がなかった 種がほとんどなかった 水がなかった 土の状態が悪かった 手入れをほとんどしなかった 他所から野菜を買うことができなかった	自給用の野菜がある 多くの種類の野菜がある 柵がある 種がある 水はまだ不足している 土が肥えた 手入れがされている 多くの家庭に菜園ができた 売れるくらい野菜が採れるようになった

		<p>他所から野菜を買わなくてすむようになった</p> <p>豚にたくさんの餌をやれるようになった</p>
栽培技術	<p>自己流で育てていた</p> <p>技術がなかった</p> <p>経験がなかった</p> <p>トレーニングを受けたことがなかった</p> <p>肥料を使ったことがなかった</p> <p>家庭菜園についてほとんど理解がなかった</p> <p>豆科の植物について知らなかった</p>	<p>技術を理解して、実際に実践するようになった</p> <p>キーホールガーデンについて知ることができた</p> <p>豆科の植物について知ることができた</p>
毎日の栄養、健康	<p>野菜不足</p> <p>他所から野菜を買っていた</p> <p>病気に罹りやすかった</p> <p>病気が多かった</p> <p>顔色が悪かった</p> <p>病院に行ってたくさんのお金を使っていた</p> <p>子供たちが細かった</p> <p>めまいが多かった</p> <p>週に一度しか野菜が食べられなかった</p>	<p>野菜を十分食べられるようになった</p> <p>買う野菜がほとんどなくなった</p> <p>病気が減った</p> <p>健康になった</p> <p>顔色が良くなった</p> <p>医療費が減った</p> <p>毎日野菜を食べるようになった</p>
他の女性住民の交流	<p>ほとんど会話がなかった</p> <p>アイデアを分かち合うことがなかった</p> <p>他の家庭菜園を訪れることはなかった</p> <p>会ってアイデアを分かち合う時間がなかった</p>	<p>お互いによく理解できるようになった</p> <p>アイデアを分かち合うようになった</p> <p>アイデアを変化できる時間を持つようになった</p> <p>他所の家庭菜園を訪問するようになった</p> <p>隣人について情報を得られるようになった</p> <p>野菜栽培について他の女性たちに働きかけるようになった</p> <p>ミーティングを持て、ハッピーな雰囲気味わえるようになった</p> <p>よく働け、気分的にも明るくなった</p>
その他	<p>種を必要としていた</p> <p>いい畑をどうしたら持てるか</p> <p>学ぶ必要があった</p>	<p>もっと種を援助してほしい</p> <p>もっと他の家庭菜園を訪れたい</p> <p>もっと技術を身につけたい</p> <p>もっとトレーニングを受けたい</p>

問題	タロの病気 豚、ネズミの食害、細菌 井戸の不足 農具の不足 土の滋養不足 うまく種を採取できない スポンジガードが枯れた 雨が多すぎる 雨季には、人糞、家畜糞以外肥料がない
----	--

資料 2

「村の中の良い変化」～プレイチャンボック村女性組合リーダーによる評価ワークショップのまとめより

日時：2001年8月9日（木）8:00AM～11:30AM、1:00PM～4:00PM

出席者：女性リーダー5人、村長（オブザーバー）

ファシリテーター：ナラ、クンティア、サニン（以上 I V Yスタッフ）

3人ずつ、2グループに分かれて女性組合活動の開始前と現在のポジティブな変化について話し合ってもらった。出されたポイントは以下の通り：

	女性組合活動以前	現在
気持ち	（女性組合リーダー） -あまり楽しいことがなかった -憂鬱だった -家族以外のことは考えたことがなかった -意見を出すことができなかった -夫に遠慮していた	（女性組合リーダー） -楽しいことが増えた -アイスブレイキングが楽しい -他人を助けることを考えるようになった -意見が言えるようになった -新しい意見やアイデアが浮かぶようになった -女性組合活動に興味があった
	（村の女性） -おとなしかった -あまり楽しいことがなかった -人前に出るのが恥ずかしかった -会議に出るのが怖かった -意見を出すことができなかった	（村の女性） -楽しいことが増えた -自信がついた -会議に出るのが楽しい -意見が言えるようになった -女性組合活動に興味があった

能力・知識	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －リーダーとしての能力がなかった －会議をリードすることができなかった －家庭の中のことしかできなかった －トレーニングの機会がなかった －米作りの知識しかなかった －家畜飼育は伝統的な方法しか知らなかった 	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －リーダーに必要な能力がついた －会議をリードすることができるようになった －プログラムに対する責任感がわいた －家畜飼育の知識を習得した －家畜の治療を行えるようになった
	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> －トレーニングの機会がなかった －家庭の中のことについても決定することは少なかった －米作りの知識しかなかった －家庭菜園、家畜飼育の技術がなかった －雨季にしか野菜を作れなかった 	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> －会議に出て意見が言えるようになった －家庭菜園、家畜飼育の技術が身についた －1年中野菜が出来るようになった
家庭の収入	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －貯蓄をしたことがなかった －収入より支出の方が多かった 	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －貯蓄をするようになった －収入の方が支出より増えた －無駄な出費が減った －家畜飼育で収入が増えた
	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> －貯蓄をしたことがなかった －収入向上の方法がなかった 	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> －収入向上の方法ができた －家畜飼育、家庭菜園で収入が増えた －豚舎建設などの新しい仕事があった －家庭菜園で野菜を買わなくてよくなった
人間関係	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －女性リーダー同士、あまり知らなかった －村の女性との交流がなかった －夫とのコミュニケーションが少なかった －子供との関係にも問題があった －母親、夫が女性組合活動をするのに反対した －他の村の人達と接したことがなかった 	<p>(女性組合リーダー)</p> <ul style="list-style-type: none"> －女性リーダー同士が仲良くなった －村の女性との交流が増えた －家庭内の問題が少なくなった －夫とのコミュニケーションが増えた －母親、夫が女性組合活動を快く了承するようになった －他の村の人達と接する機会が増えた

	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> -村の女性同士の交流がなかった -夫とのコミュニケーションが少なかった -母親、夫が会議に出るのを反対した -子供との関係もよくなかった -家庭内暴力があった 	<p>(村の女性)</p> <ul style="list-style-type: none"> -村の女性同士の交流が増えた -お互い、協力し合えるようになった -夫とのコミュニケーションが増えた -家庭内の問題が少なくなった -母親、夫が会議に出るのを快く了承するようになった -家庭内暴力が減った
その他	<ul style="list-style-type: none"> -リーダーがいなかった -村の組織がなかった -NGO 支援がなかった -トレーニング、意見交換の機会がなかった -お互い会う時間がなかった 	<ul style="list-style-type: none"> -女性組合の組織ができた -NGO の支援が入った -トレーニング、意見交換、他の女性と会う機会ができた